

## 月例研究会のご案内

軍事問題研究会では、月に1回定例研究会を開催しております。

希望者にはメールで案内を配信しておりますので、ttn5rhg28d@mx2.ttcn.ne.jp まで「月例研案内希望」とお申し付け戴ければ案内を配信致します。

軍事問題研究会

〒143-0025 大田区南馬込4-27-8-103

TEL/FAX 03-3778-3752

### (月例研究会実績[2010年下半期])

#### テーマ:「安全保障概念の変化」

日時:7月31日(土)午後3時~5時(2時45分開場)

検討資料:「安全保障概念の変化—9・11事件後に焦点をあてて」(防衛研究所平成14年度特別研究)

9.11テロを境にして安全保障概念に変化が現れている。特に同盟関係においては、それまでの「脅威」から「リスク」へと対象が変化し、リスク配分を巡る政治問題が発生し始めた。今後の同盟管理はリスクを軸に理解することが重要となり、この観点から日米同盟関係を検討する。

#### テーマ:「高々度核爆発に対する我が国の対応」

日時:8月21日(土)午後3時~5時(2時45分開場)

検討資料:水野 文雄 1等陸佐「核弾頭搭載弾道ミサイルの高高度核爆発に対する我が国の対応」『陸戦研究』2010年2月号掲載

これまで、弾道ミサイル防衛に関する論文は多数書かれているが、広島、長崎型の地表核爆発を前提としたものであり、高高度核爆発に焦点を当てたものはない。本論文は、高高度核爆発の特性とそれに起因する影響、現在の日本が採っている核抑止戦略及び弾道ミサイル防衛等の現状を踏まえた今後の対応を提言している。

#### テーマ:「現代戦とゼロ・カジュアリティ」

日時:9月11日(土)午後3時~5時(2時45分開場)

検討資料:「ゼロ・カジュアリティに関する調査研究」(平成21年度防衛省委託研究)

戦闘で兵士の犠牲を出さないようにする今日の先進国の風潮を「ゼロ・カジュアリティ」(Zero Casualty)と言い表される。このゼロ・カジュアリティが、現代戦に与える影響について検討する。

#### テーマ:「宇宙軍事利用の拡大と弾道ミサイル防衛」

日時:10月9日(土)午後3時~5時(2時45分開場)

検討資料①:碓 治 1等空佐「宇宙基本法による宇宙軍事利用の拡大と弾道ミサイル防衛の進展」『鵬友』2010年1月号、3月号連載

検討資料②:村山 隆雄(国立国会図書館文教科学技術調査室)「我が国の宇宙開発を考える視点—『宇宙基本法案』の上程に寄せて—」『レファレンス』(国立国会図書館調査及び立法考査局)2007年9月号

2008年に「宇宙基本法」が制定されたことにより、これまで非軍事に限られていた我が国の宇宙利用も大きな転換を遂げることになった。

同法の制定による宇宙利用拡大の可能性、特に我が国安全保障政策上優先度の高い弾頭ミサイル防衛がどのように進展するかについて検討する。

#### テーマ:「周辺事態と自衛隊の対米協力」

日時:11月13日(土)午後3時~5時(2時45分開場)

検討資料①:「日米物品役務相互提供業務の参考」(統合幕僚監部)

検討資料②:「国際法概説」(航空自衛隊幹部学校 承認日:平成17年7月21日)

朝鮮半島有事や台湾海峡有事が想定されている「周辺事態」は、実は日本の有事には該当しない。ただし在日米軍及び同事態に対処する米軍にとっては戦時だ。

この事態において日本は、日米物品役務相互提供協定(ACSA協定)に基づき対米支援を行わなければならないため、その国際法上の立場は極めて微妙である(紛争の直接の当事国ではないが、中立国とも言えない)。

さて日本は、この事態に米軍にどのような支援を行うのか、その具体策と知ると共に、それら行為の国際法上の意味についても検討する。

#### テーマ:「自衛隊ドクトリンの研究」

日時:12月25日(土)午後3時~5時(2時45分開場)

検討資料:「航空自衛隊ドクトリン等に関する調査研究について(報告)」(幹校計第37号 18.3.31)

軍事ドクトリンは、主として米軍を中心として発展を遂げてきたのであるが、我が国ではまだ馴染みがない。

しかし近年、自衛隊においてもドクトリンを導入する動きがある。

ドクトリンとは何か? 戦略とどう異なるのか? 自衛隊におけるドクトリンの位置付けは? それらを検討する。